

第 1 回津島市巡回バス検討委員会 会議結果

1 開催日時

令和 6 年 9 年 19 日（木） 午後 1 時 30 分から午後 2 時 45 分まで

2 開催場所

津島市役所 3 階 市長公室

3 出席者

別紙「第 1 回津島市巡回バス検討委員会出席者名簿」のとおり

4 議事

(1) ふれあいバス等の利用実績について

(2) ふれあいバスの見直しについて

5 会議資料

- ・資料 1 ふれあいバス等の利用実績について
- ・資料 1 別紙 1 津島市内の移動サービス
- ・資料 2 ふれあいバスの見直しについて
- ・資料 2 別紙 1 市民会議 結果詳細
- ・「ふれあいバスの見直しに対する意見・見直し案の提案について」依頼文等一式

6 あいさつ

(1) 企画政策課長

- ・ふれあいバスは、市民、利用者の活動支援及び公共施設利用の利便の向上を図るため、平成 13 年 10 月から試行運転を始め、平成 14 年、平成 19 年、平成 22 年、平成 26 年、令和 2 年には、運行方法やコースの変更を行い、現在に至っている。
- ・令和 2 年 10 月のルート改正からまもなく 4 年が経過し、また、現行車両は平成 26 年 7 月に購入してから 10 年が経過していることから、ルート改正と車両の見直しを行う必要がある。
- ・津島市巡回バス検討委員会は、市内 8 小学校区のコミュニティ推進協議会のほか、老人クラブ連合会及び身体障害者福祉会を代表する 10 名の方に委員をお願いし、また、中部大学の磯部教授にアドバイザーをお願いしており、色々な角度からご助言をいただいて、進めていきたい。
- ・なお、本日の会議では、ふれあいバス等の利用状況やふれあいバスの見直しの進め方について説明し、具体的なルートの見直し案は次回以降の会議にてお示しする予定である。

- ・この検討委員会での皆様のご意見をもとに、地域にとって役に立ち、市民にとって使える公共交通となるよう、忌憚のないご意見をお願いしたい。

(2)磯部教授

- ・津島市とは長いお付き合いをさせていただいている。津島市の公共交通のよいところは伸ばして悪いところは直していけるとよい。これからよろしく願いしたい。

7 会長の選出

- ・津島市老人クラブ連合会代表者の日比正光氏を会長に選出
- ・高台寺小学校区コミュニティ推進協議会代表者の安藤達好氏を会長代理に指名

8 議題

(1) ふれあいバス等の利用実績について

【事務局】

《資料1、資料1別紙1をもとにふれあいバス等の利用状況を説明》

※質疑なし

(2) ふれあいバスの見直しについて

【事務局】

《資料2、資料2別紙1、「ふれあいバスの見直しに対する意見・見直し案の提案について」依頼文等一式をもとに見直しの方向性等を説明》

【委員】

- ・前回の見直しの際の一番のネックは、バスが2台のままであった。今回、車両を4台に拡大することで利用が伸びると思う。地域住民に車両台数が増える予定である旨を話すとみんな喜ぶと思う。車両の台数増加を強く要望する。

【事務局】

- ・財政的な懸念もあるが、担当課としては車両を4台に拡大する方向で進めていく予定である。また問題点があれば、この場でご提示させていただく。

【委員】

- ・おでかけタクシーについて、日の丸タクシ株式会社はまだ実施しているか。

【事務局】

- ・実施している。

【委員】

- ・名鉄西部交通株式会社のタクシー台数がかなり減ったようで、全く電話にも出ないことがあると言っている方がいた。
- ・ふれあいバスの料金を変更する予定はあるか。

【事務局】

- ・車両を2台から4台に拡大すると経費もその分かかってくるため、利用される方にもその分を負担していただきたい。現在、一乗車100円で運行しているが、値上げもあわせて検討していきたいと考えている。

【委員】

- ・無料にすることは考えていないか。

【事務局】

- ・受益者負担を求めたいと考えている。

【委員】

- ・これまでは、車両が大きく通行できない道路があったが、車両を小型化することによって、コースをかなり自由に変えることができると感じた。
- ・南小学校区では、家族を車に乗せるように、近隣の人を乗せてあげることのできるまちづくりができないか、という意見が多い。
- ・また、交通だけでなく様々なものについて、費用を負担することを常識にできるとよいという意見もある。

【委員】

- ・ルートの見直しと車両の見直しという2つのテーマについて検討するとのことだが、テーマが大きいため、ルートの見直しと車両の見直しでメンバーを分けて検討したほうがよいと思った。
- ・国土交通省で白タクの認可が甘くなると聞いているため、将来的にはそれを導入することも考えながら、見直しをしていく必要があると思う。

【委員】

- ・神守地区は、日光川より東の地区であるため、青塚駅や蟹江駅の利用が多く、津島駅の利用は少ない。そのため、青塚駅への利便性が向上するとよい。
- ・スーパー等はヨシヅヤを中心に考えていると思うが、日光川より東の地区ではヤマナカに行く人も多いため、そこにバス停があるとよい。

【委員】

- ・バスの台数が増えることはよいことだと思う。バスの台数が増える予定であることは、コミュニティの会議で話したいと思う。
- ・普段ふれあいバスを利用して、バスの運転士が、今津島駅に着いたばかりなのに、トイレだけ行って、一服もしないで次の便を運行していることが見えてきて、車両は4台あるとよいと感じるようになった。
- ・朝、子どもの見守り活動をしているが、青塚駅周辺は子どもが通ったり車が通ったりして、1つ間違えると事故になると感じるほど危ない。青塚駅にロータリーができるなど駅周辺が変わることを聞いているため、何とか早く青塚駅周辺が開発され、それに乗じて、青塚駅南口停留所を青塚駅近くに寄せてほしい。
- ・Bコースだけ行き帰りがあるが、他のコースも行き帰りがあると、ヨシヅヤで買い物した高齢者がすぐ近くの町に帰れると思うので、両回り運行はぜひやっていただきたい。
- ・今、学校では特別支援学級が増えている。以前は1～2クラスだったのが、今は3～4クラスになっている。これから先のことを考えると、特別支援学級の子どもたちがふれあいバスを使って学校に行くことができるようなコースを考えてほしい。
- ・蛭間地区だけでなく神島田地区にも多くの特別支援学級がある。子どもは少ないが、これからの子どもたちのために何ができるかを考えたほうがよいと思う。
- ・会議は今日からスタートなので、皆の意見を踏まえて、よりよい方向に持っていけるとよい。

【委員】

- ・運賃収入が約500万円あり、経費が約4,000万円かかっているが、車両を2台から4台にすることで経費も当然アップする。車両を小型化するとバリアフリー対応車両がないことや乗せこぼしの問題が出てくる。ヨシヅヤ本店で1年に1回ぐらい乗せこぼしがあると聞いたことがある。車両をどのサイズにするかわからないが、経費やバリアフリー、乗せこぼしなどを考える際、矛盾が発生すると思う。
- ・近隣自治体では、15人乗り程度のマイクロバスが運行している。マイクロバスではバリアフリー対応できないという問題が出てくると思うが、障がい者の方にはおでかけタクシーを利用していただくなど、様々な観点から検討していただきたい。

【委員】

- ・神島田地区もたくさんの特別支援学級があるため、特別支援学級の子どもがふれあいバスを通学に利用できるとよいと思う。今度、学校の運営委員会で話題に出してみたい。

- ・神島田地区では弥富市の病院に行く方が多いが、不便だとの声がある。現状おでかけタクシーでは弥富市の病院に行けないため、使えるようにしてもらいたい。
- ・下春日台の住民が買い物に行くのに、現状ヨシヅヤ本店と唐臼店の2箇所しか利用できない。もう少し幅広く利用できるようなになるとよい。
- ・先ほど話題に出ていた、近隣の人を自家用車に乗せてあげることについて、本当は乗せてあげたいが、事故を起こしたときに困るので、その点を考えると大変難しい部分もあると思っている。

【委員】

- ・名鉄路線バスに乗って津島駅まで来て、津島駅からふれあいバスに乗る場合、運賃はどうなるのか。乗り継ぎ券等は発行されるのか。

【事務局】

- ・現状はそのような乗り継ぎシステムはなく、名鉄路線バスで津島駅まで来たら一旦名鉄路線バスの料金を支払い、津島駅からふれあいバスを利用したら100円お支払いいただいている。

【委員】

- ・何とかうまく乗り継ぎ利用ができるようにしてもらいたい。
- ・今、市の送迎バスで総合保健福祉センター前にある彩雲館に行っている。そこでは、障害者手帳を持っている方が、カラオケや切り絵などをして朝の9時から午後3時半まで過ごすことができる。その他、トレーニングウェアを裁断して出たくずを工場からもらってマットを作っている。作ったマットは市役所で販売したり、商売屋の店先でおろしてもらったりしている。
- ・やることは何でもあるが、今現在は4人しか来ていない。もう少し人数が増えないかと思っているが、場所すら知らない人が多い。周囲に障害者手帳をお持ちの方がいたら、声をかけてほしい。

【アドバイザー磯部教授】

- ・大きく3つ話したいと思う。
- ・1つ目、交通サービスがどうなっているのか事務局から追加資料で説明があったが、それ以外にも通常のタクシー、障がい者の方の送迎サービスなど様々なサービスがある。もちろん、自家用車という手段もある。その他、自家用車を活用できるのではないか、という話もある。様々なサービスがあることを踏まえて整理したほうがよい。
- ・2つ目、交通だけを目的とする人はおらず、人は何かをするために交通サービスを利用する。誰が何のために移動しなくてはいけないのか次第で、交通のあ

り方が変わってくる。常に様々な活動との関係で交通のあり方を検討することが大事である。どの目的も大事だが、様々な目的のうちどれを大事にするか考えたとき、行政としては、動きたいけど動けない人たち、要するに困り事を持っている人たちを支援するためにどうしたらよいか検討しないといけない。

- ・ 3つ目、お金について、全部税金で賄えばいいと言うことは簡単だが、税金には限りがあり、様々な使い道がある。市民や地元企業など税金を払っている人が納得できる使い方をするのが大事である。
- ・ ふれあいバスの時刻表には広告が掲載されており、また、バス車両にも広告が掲載され、様々な広告収入によって助かっている。税金だけではなく、支援してくださる方々も仲間にしていくとよい。皆が協力できることも含めて議論をしていくとよいと思う。

9 その他

【事務局】

- ・ 検討委員会の議事録は、委員名簿を含め、津島市公式ホームページに掲載して公表する予定のため、ご承知おきいただきたい。